

令和7年度
第3弾RPAを活用した
業務効率化・コスト削減 DX

コース番号：055-063

2026年

開催日時：2月10日(火) 募集締切：1月27日(火)
9:30~16:30 (6時間)受講料
3,300円(税込)開催場所：ポリテクセンター山梨(裏図参照)
定員：16名程度(先着順)
推奨者：中堅層

コースの狙い

業務の効率化とコスト削減をめざして、RPAの技術概要や活用事例、活用検討にあたってのポイントを理解し、RPAを活用した自社業務の課題解決立案に繋げることができる能力を習得します。

主な訓練内容

◎ 業務を自動化する RPA (Robotic Process Automation) 活動の基本

(1) RPAの機能の概要

- 近年注目されるデータ入力や情報チェックなどのホワイトカラーの間接業務を自動化や効率化し、生産性を向上させるテクノロジーRPAの機能の概要について説明。

【演習①】自社の現状および課題

(2) RPAの特徴(活用の向き／不向き)

- 業務を自動化する画期的なRPAであるが、出来ることと出来ないことがあり、そのポイントを理解し、活用の向き／不向きを考察する。

【演習②】業務をスムーズに進めるための工夫

(3) RPAを導入するメリット

- RPAを導入することによる効果の特徴と紐づけて解説。
効果を理解することでメリットを知り、自社の課題および状況に照らし合わせてRPA導入をシミュレーションする。

【演習③】自動化が必要な業務の洗い出し

(4) RPAの活用事例

- RPAを活用するため、RPAの得意なことや使われているテクノロジーを知ることが必要であり、手段としてではなく「なぜRPAなのか」、目的を踏まえて事例を紹介。

【演習④】自動化対象業務の棚卸しと選定

◎ RPAを活用した業務効率化とコスト削減策の立案

(1) RPA活用のための業務の見える化

- 業務自動化を活用するためには、業務効率を悪くして、生産性を下げている業務の流れ・内容を具体的に把握する必要がある、見える化と自動化棲み分けについて考察する。

【演習⑤】業務の見える化・フローチャート作成

(2) RPA活用による業務効率化の検討

- RPAの導入形態を知り、導入環境にはどのRPAが適しているのか説明する。
導入のスタートとなる「業務の棚卸し」から機能要件の定義など導入の一連の手順を説明する。

【演習⑥】業務の改善箇所検討

(3) RPA導入コストと削減コストの比較

- RPAツール別の特徴およびコストを比較する。導入及び利用コストを回収して効果として現れる削減コストとの効果を図を使って説明する。

【演習⑦】効果検証の項目検討

(4) 導入に係るコスト削減策立案

- 導入手順のポイントを押さえた上で、導入前の検証から効果測定モデルの確立について説明する。
対象業務の適用範囲と段階的な拡大をしながら、いかに成功ノウハウを積み上げて効果を出すかを解説。

【演習⑧】ケーススタディによる業務改善・自動化検討

○ 訓練内容のココがポイント！

働く環境の変化や日本の現状、RPA技術の最新の動向を理解した上で、RPAを用いて業務上の課題を解決するためのプロセスや知識の習得を図ります。

一方的な知識ではなく、双方向や演習を通じて、現場で実践活用できるようになるための演習を挟みます。

お申し込みは

※ 当HP内「令和7年度オープンコース第3弾受講者募集のご案内」の下部に、Excel形式で直接必要事項が入力できる「オープンコース第3弾受講申込書」があります。

実施機関 & 講師

株式会社 日本能率協会
コンサルティング
IoTガジェット研究所
研究員 仲村 健太氏

講師Profile

自動車メーカーにてITシステム開発プロジェクトリーダーなど多種のシステム開発や事業開発に携わり、2016年に独立して2017年にIoTガジェット研究所を設立。現在はIoTやAI、RPAなど先端技術に携わり、開発も行う。IoT開発やRPA導入に関する相談アドバイスやマッチング実績もある。

